

そう だい  
総 題 「永遠の命 — 死の起源、死すべき者、未来の希望」

ふっかつ  
※復活：よみがえり

だいはち か しんやくせいしよ き ぼう  
第8課 新約聖書の希望

せき や しゅういち  
関谷 修一

いち あんそくにち ご  
1. 安息日午後

しんやくせいしよ き ぼう  
新約聖書の希望は、イエス・キリストにある希望です。み こ むす ひと いのち かみ こ  
御子と結ばれている人にはこの命があり、神の子と  
むす ひと いのち いち ご じゅういち ひと し だれ たましい い  
結ばれていない人にはこの命がありません」(一ヨハネ5: 1 1)。これは人が死んだら誰でも 魂 だけは生きて  
いて、自動的にすべての人が天国へ行ったりすることではない、ということです。えいえん いのち ただ  
永遠の命とは只、イエス・キ  
リストを知る人だけにあります(ヨハネ 1 7 : 3)。私 たちの唯一の希望は、イエス・キリスト (以下「キリス  
ト」に統一) です。

に にちようび よ じんせい む き ぼう  
2. 日曜日：この世の人生の向こうにある希望

にんげん けいき いち 1 さだ し けいしゅう い わたし だれ  
ビクトル・ユーゴーは、「人間は刑期を 定められていない死刑囚 である」と言いました。私 たちは誰でも、  
じぶん し し 2 つい みち き のうきょう おも  
いつかは自分が死ぬことを知っています。しかし、※「遂にゆく道とは、かねて聞きしかど 昨日今日とは、思わざ  
りしを」で、死はずっと遠い未来の事としか 考 えられない人は少なくないようです。いえ、考 えないようにして  
いるだけかもしれません。

せいしよ わたし すく めし じゅうじ か し たし みつ か め ふっかつ いち じゅうご さん よん  
聖書は、私 たちの救い主キリストが十字架の死から、確かに三日目に復活した (一コリント 1 5: 3-4)  
か ふっかつ しん ねむ すべ ひと ふっかつ き ぼう  
と書いています。キリストが復活したのですから、キリストを信じて眠りにつく全ての人たちにも復活する希望が  
あた わたし のぞ よ じんせい おわ  
与えられました。私 たちの望みは、この世の人生だけで終わるものではありません。

いちさだ き  
※1 定められていない：決まっていない

に つい みち き き のうきょう おも し にんげんさいご い みち  
※2 「遂にゆく道とは、かねて聞きしかど 昨日今日とは、思わざりしを」：死ぬというのは人間最後には行く道と  
まえまえ き さき き のう きょう おも  
前々から聞いていたが、それはずっと先のことで昨日、今日という さしせまった (すぐの) こととは思わなかつ  
た。 こ きんわ か しゅう さくしや ありわらのなりひら  
古今和歌集、作者は在原業平

### 3. 月曜日：「わたしは再び来る」

キリストが来られる（再臨）時に、キリストを信じて眠りについた人々が蘇ります。キリストが来られなければ（再臨がなければ）、復活はありません。では、（キリストの）再臨はまだなのでしょう。長い人間の歴史から言うと、キリストが天に帰られてから現在まで、（キリストの）再臨は随分と時間が経っているように見えます。でも、「わたし」という個人から見ると、（キリストの）再臨は、私が死んでから、わずか一瞬の後に起こります（死んだら無意識（眠った時に何も分からないのと同じようになる））ですから、どんなに時間が過ぎようとも、すべてはアツという間の時間です。私たちの死は、いつ来るのか分かりません。でも、間違いなく死の瞬間に、私たちは再臨のキリストとお会いします。私たちはその時が「いつ」なのかは、分かりません。しかし、キリストは、必ずその（キリストの再臨の）時に私たちとお会いして下さい。キリストは再び来られる（再臨する）のです。「行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。」ヨハネ 14:3

### 4. 火曜日：「わたしがその人を復活させる」

キリストは

①「天から降って来て、世に命を与え」（ヨハネ6：33）で下さるパンのような方です。

②このキリストの中に永遠の命があります（ヨハネ17:3）。

③そしてキリストは、永遠の命を与えるために「わたし（キリスト）がその人を終わりの日に復活させる」（ヨハネ6:40）と約束して下さいました。

キリストが私たちに約束されている永遠の命は、「復活」で与えられる命です。ですから、私たちもいつかは眠りにつきますが、死んだ後に「蘇る」ことを通して与えられる永遠の命です。その素晴らしいプレゼントを、キリストは再臨の時に、キリストを信じて眠りについて全ての人々に与えて下さいます（生きてキリストの再臨を見ることができた人々は、エリヤのように死ぬことなく永遠の命を頂きます）。

### 5. 水曜日：神のラッパの鳴り響くと

「死んだら、すぐに天国へいく」というのであれば、「キリストを信じて眠りについた人たち」を「復活」させる

ために、キリストが再臨<sup>さいりん</sup>される必要<sup>ひつよう</sup>はありません。キリストを信<sup>しん</sup>じて亡<sup>な</sup>くなった人<sup>ひと</sup>たちは、キリスト再臨<sup>さいりん</sup>の時<sup>とき</sup>まで無意識<sup>む いしき</sup>で（眠<sup>ねむ</sup>った時<sup>とき</sup>に何も分<sup>わか</sup>からないのと同じように）墓<sup>おな</sup>で過<sup>はか</sup>ぎします。そして、神<sup>かみ</sup>のラッパ<sup>な</sup>の鳴<sup>ひび</sup>り響<sup>あい</sup>くのを合<sup>あ</sup>図<sup>ず</sup>に、御使<sup>みつか</sup>いと共<sup>とも</sup>にキリストが、天<sup>てん</sup>から下<sup>くだ</sup>ってこられます。すると、まずキリストを信<sup>しん</sup>じて死<sup>し</sup>んだ人<sup>ひと</sup>たちが最<sup>さい</sup>初<sup>しよ</sup>に復<sup>ふ</sup>活<sup>かつ</sup>し、続<sup>つづ</sup>いて生<sup>い</sup>き残<sup>のこ</sup>っている人<sup>ひと</sup>たちが、彼<sup>かれ</sup>らと共<sup>とも</sup>に雲<sup>くも</sup>に包<sup>つつ</sup>まれて引<sup>ひ</sup>き上<sup>あ</sup>げられて、空<sup>くうちゅう</sup>中<sup>あ</sup>でキリストと出<sup>で</sup>会<sup>あ</sup>います（一テサロニケ4：16－17）。

## ろく もくようび えいえん で あ 6. 木曜日：永遠<sup>えいえん</sup>の出<sup>で</sup>会<sup>あ</sup>い

（キリスト）再臨<sup>さいりん</sup>の時<sup>とき</sup>、今<sup>いま</sup>までこはなかつた驚<sup>おどろ</sup>くような出<sup>で</sup>会<sup>あ</sup>い<sup>お</sup>こります。キリストを信<sup>しん</sup>じて生<sup>い</sup>き残<sup>のこ</sup>っている人<sup>ひと</sup>たちは、「一瞬<sup>いっしゆん</sup>」で死<sup>し</sup>ぬことのない体<sup>からだ</sup>に<sup>か</sup>変<sup>へ</sup>えられます。それから、復<sup>ふ</sup>活<sup>かつ</sup>した聖<sup>せい</sup>徒<sup>と</sup>（キリストを信<sup>しん</sup>じて眠<sup>ねむ</sup>って人<sup>ひと</sup>たち）と共<sup>とも</sup>に「キリストを信<sup>しん</sup>じて生<sup>い</sup>き残<sup>のこ</sup>っていた人<sup>ひと</sup>たち」は、キリストと出<sup>で</sup>会<sup>あ</sup>うために空<sup>くうちゅう</sup>中<sup>あ</sup>に上<sup>あ</sup>げられます。このことは、※<sup>3</sup>神<sup>しん</sup>秘<sup>び</sup>（一コリント15：51）と言われるほど不思議<sup>ふ し ぎ</sup>なことですが、救<sup>すく</sup>われた人<sup>ひと</sup>たちは再<sup>さい</sup>会<sup>かい</sup>の喜<sup>よろこ</sup>びと共<sup>とも</sup>に、「もう永<sup>えい</sup>久<sup>きゅう</sup>に別<sup>わか</sup>れることなく、喜<sup>よろこ</sup>びの歌<sup>うた</sup>をうたいながら、と<sup>かみ</sup>もに神<sup>かみ</sup>の都<sup>みやこ</sup>へと上<sup>あ</sup>がって」『希<sup>き</sup>望<sup>ぼう</sup>の光<sup>ひかり</sup>』1914（せんきゅうひやくじゅうよん）頁<sup>ページ</sup>、『各時代<sup>かくじだい</sup>の大争闘<sup>だいそうとう</sup>』下卷<sup>げ かん</sup> 4 25頁<sup>よん にじゅうごページ</sup>）きます。これが「昇<sup>しょう</sup>天<sup>てん</sup>」というこ<sup>と</sup>で、この時<sup>とき</sup>にはじめて、救<sup>すく</sup>われた人<sup>ひと</sup>たちは天<sup>てん</sup>国<sup>こく</sup>へと昇<sup>のぼ</sup>っていきま<sup>す</sup>。

※3 神<sup>さん</sup>秘<sup>しん</sup>：人<sup>にん</sup>間<sup>げん</sup>の知<sup>ち</sup>恵<sup>え</sup>ではわ<sup>か</sup>らな<sup>い</sup>不思議<sup>ふ し ぎ</sup>なこと

## なな きんようび けんきゅう 7. 金曜日：さらなる研<sup>けん</sup>究<sup>きゅう</sup>

キリストを知<sup>し</sup>る人<sup>ひと</sup>にだけ、永<sup>えい</sup>遠<sup>えん</sup>のいのちが与<sup>あた</sup>えられます。それは、確<sup>たし</sup>かにキリストが、十<sup>じゅう</sup>字<sup>じ</sup>架<sup>か</sup>の死<sup>し</sup>から復<sup>ふ</sup>活<sup>かつ</sup>された救<sup>すく</sup>い主<sup>ぬし</sup>であるとい<sup>う</sup>ことを信<sup>しん</sup>じることです。繰<sup>く</sup>り返<sup>かえ</sup>しますが、誰<sup>だれ</sup>でも死<sup>し</sup>んだら、自<sup>じ</sup>動<sup>どう</sup>的<sup>てき</sup>に天<sup>てん</sup>国<sup>こく</sup>へ行<sup>い</sup>くわけではあ<sup>り</sup>ません。すべ<sup>ひと</sup>ての人<sup>し</sup>が、死<sup>はか</sup>んだら墓<sup>ねむ</sup>で眠<sup>ねむ</sup>ってしま<sup>い</sup>ます。けれ<sup>ど</sup>、キリストが復<sup>ふ</sup>活<sup>かつ</sup>されたからには、キリストを信<sup>しん</sup>じるすべ<sup>ひと</sup>ての人<sup>し</sup>たち<sup>ふ</sup>に復<sup>ふ</sup>活<sup>かつ</sup>の希<sup>き</sup>望<sup>ぼう</sup>が与<sup>あた</sup>えられま<sup>し</sup>た。「イエス（キリスト）が死<sup>し</sup>んで復<sup>ふ</sup>活<sup>かつ</sup>されたからには、同<sup>どう</sup>様<sup>よう</sup>に神<sup>かみ</sup>はイエスにあ<sup>ねむ</sup>って眠<sup>ひと</sup>っている人<sup>ひと</sup>々<sup>びと</sup>をも、イエスと一<sup>いっ</sup>緒<sup>しょ</sup>に導<sup>みち</sup>き出<sup>だ</sup>して下<sup>くだ</sup>さるであ<sup>い</sup>らう」（一テサロニケ4：14 口語<sup>こうご</sup>訳<sup>やく</sup>）と書<sup>か</sup>かれてい<sup>とお</sup>る通<sup>す</sup>り<sup>ば</sup>にです。この素<sup>やく</sup>晴<sup>そく</sup>らしい約<sup>き</sup>束<sup>ぼう</sup>と希<sup>わ</sup>望<sup>たし</sup>が、私<sup>わたし</sup>たちがいつ、ど<sup>とも</sup>こにい<sup>とも</sup>ようと共<sup>とも</sup>にあることを感<sup>かん</sup>謝<sup>しゃ</sup>したいと思<sup>おも</sup>います。